



## 平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年10月15日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福  
 コード番号 9601 URL https://www.shochiku.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699  
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績（平成30年3月1日～平成30年8月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	44,281	△10.3	2,450	△49.0	2,102	△52.7	1,360	△48.3
30年2月期第2四半期	49,384	3.3	4,801	15.2	4,444	19.6	2,633	13.4

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 1,262百万円 (△62.0%) 30年2月期第2四半期 3,322百万円 (74.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	99.01	—
30年2月期第2四半期	191.63	—

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益額を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年2月期第2四半期	207,444	93,263	44.9	6,781.17
30年2月期	203,572	92,566	45.4	6,730.27

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 93,159百万円 30年2月期 92,466百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	0.00	—	40.00	40.00
31年2月期	—	0.00	—	—	—
31年2月期（予想）	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成31年2月期の連結業績予想（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,600	2.9	5,660	△12.4	5,000	△13.4	3,210	△14.4	233.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 一 社（社名）、除外 1 社（社名）匿名組合築地ビルキャピタル
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年2月期2Q	13,937,857株	30年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	31年2月期2Q	199,867株	30年2月期	199,026株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年2月期2Q	13,738,411株	30年2月期2Q	13,741,596株

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益および雇用情勢の改善が継続し、賃上げや最低賃金の引き上げ等により、個人消費は持ち直しており、景気の緩やかな回復が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高44,281百万円(前年同期比10.3%減)、営業利益2,450百万円(同49.0%減)、経常利益2,102百万円(同52.7%減)となり、特別損失3百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,360百万円(同48.3%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## (映像関連事業)

配給は、邦画6本、洋画5本、アニメ6本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとパラエティに富んだ作品を公開しました。5月公開の「妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ」は山田洋次監督の喜劇シリーズの3作目として、全国に笑いと感動を届け、6月公開の「空飛ぶタイヤ」は社会派エンターテインメントとして幅広い層に支持され大ヒットとなりました。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズにおいては、ポイントキャンペーンによる会員事業の強化、売店商品のリニューアル、上映作品の編成に工夫を図ることで、他社競合館との差別化を推進しました。

テレビ制作は、BS放送にて、「無用庵隠居修行2」「雲霧仁左衛門4」、日本映画の名作を4Kの美しい映像でドラマ化する「遙かなる山の呼び声」を受注制作いたしました。

映像ソフトは、「8年越しの花嫁 奇跡の実話」が映画の大ヒットに続き好調に推移しました。テレビ放映権販売は、BS放送にてBSジャパンで「男はつらいよ」シリーズに続いて、「釣りバカ日誌」シリーズの契約により、収益に貢献しました。海外向け作品販売は、「8年越しの花嫁 奇跡の実話」、「妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ」のアジア向けの販売が好調に推移しました。

CS放送事業等は、松竹ブロードキャスティング(株)においては、有料多チャンネル放送市場の低迷に苦慮したものの、業務の効率化やコスト削減等により収益の確保に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24,083百万円(前年同期比16.8%減)、セグメント利益は444百万円(同83.5%減)となりました。

## (演劇事業)

歌舞伎座は、「三月大歌舞伎」は、四世中村雀右衛門七回忌追善狂言「男女道成寺」をはじめ、片岡仁左衛門、坂東玉三郎による「於染久松色読販」などの話題作を揃えました。「四月大歌舞伎」は、明治百五十年を記念した「西郷と勝」、比較的上演頻度の少ない「裏表先代萩」、仁左衛門一世一代を謳った「絵本合法衛」といった狂言を揃え、好評を博しました。「團菊祭五月大歌舞伎」は、十二世市川團十郎五年祭を銘打ち、通し狂言「雷神不動北山櫻」や河竹黙阿弥作「弁天娘女男白浪」が人気を呼び盛況でした。「七月大歌舞伎」は、オペラや能楽を舞台に取り入れました「源氏物語」などが大きな話題を呼びました。「八月納涼歌舞伎」は、古典落語をもとにした「心中月夜星野屋」や、「東海道中膝栗毛」の第三作目などの新作歌舞伎を中心に大好評の公演となりました。

新橋演舞場は、3月は三谷幸喜の作・演出「江戸は燃えているか」をパルコとの共催で上演し大盛況となりました。4月、5月は「滝沢歌舞伎2018」が本年も好評を博しました。5月後半には、緒方洪庵の「蘭RAN」を前半の大阪松竹座に引き続いて上演し話題となりました。8月は集英社、テレビ東京などと共同で、人気少年漫画の舞台化、新作歌舞伎「NARUTO-ナルト-」を上演し、大盛況となりました。

大阪松竹座は、3月は関西ジャニーズJr.公演の「春休みスペシャルShow2018」が好評を博しました。4月はスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「ワンピース」が市川猿之助、尾上右近のダブルキャストで堅実に収益を計上し、5月には「蘭RAN」とOSK「春のおどり」の2公演を上演、6月は山田洋次脚本・演出の音楽劇「マリウス」が新たに桐山照史主演で収益に貢献し、「七月大歌舞伎」は、二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎襲名披露公演で多方面にわたる早期営業展開と話題喚起に努め、大盛況となりました。

南座につきましては、耐震補強を図る工事のため、休館しております。

その他の公演は、5月は渋谷・コクーン歌舞伎「切られの与三」を中村七之助主演、串田和美演出・美術、木ノ下裕一補綴で上演し、好評を博しました。6月に三越劇場では、昨年話題となりました喜多村緑郎、河合雪之丞の「黒蜥蜴」を全米版として再構築し、上演しました。

巡業公演は、4月に第34回「四国こんぴら歌舞伎大芝居」を香川県で上演し、7月は公文協巡業として東コースでは、尾上菊之助を座頭に、中央コースでは、「八代目中村芝翫襲名披露公演」を全国各地で展開しました。

受託製作では、4月に新開場しました名古屋御園座にて、「柿葺落四月大歌舞伎」は二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎の襲名披露公演を上演し、5月はスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「ワンピース」、6月は名古屋初上演となる「滝沢歌舞伎2018」がそれぞれ大好評の舞台となりました。8月は日生劇場で「ニッセイ親子歌舞伎」の製作を行いました。

シネマ歌舞伎では、やじきた第二弾「東海道中膝栗毛 歌舞伎座捕物帖」を6月から全国公開しました。METライブビューイングは、2017-2018シーズンの「ラ・ボエーム」「サンドリヨン」他を上映しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は12,463百万円（前年同期比1.1%増）、セグメント利益は1,099百万円（同9.5%増）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー・築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）・東劇ビル・新宿松竹会館（新宿ピカデリー）・有楽町センタービル（マリオン）・松竹倶楽部ビル等の満室が続き、全体でも高い稼働率で安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し利益確保に努め、効率的運営、経費削減を推進し、計画どおりに利益を確保しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,226百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は2,305百万円（同0.4%減）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、劇場プログラムで「機動戦士ガンダムTHE ORIGIN 誕生 赤い彗星」「銀魂2 掟は破るためにこそある」が収益に貢献しました。キャラクター商品は「宇宙戦艦ヤマト2202」シリーズ等のアニメ作品が好調な売上となりました。

イベント事業は、大阪・みさき公園で「巨大昆虫の森」を開催、ファミリー層を中心に人気を博しました。

キャラクター「かぶきにゃんたろう」プロジェクトにおいては、3月からはサンリオピューロランド内で上演が始まった「歌舞伎」と「ミュージカル」がコラボした「KAWAII KABUKI ～ハローキティ一座の桃太郎～」の劇中にも、かぶきにゃんたろうが登場し人気を博しており、関連商品の展開も積極的に行いました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,509百万円（前年同期比14.9%減）、セグメント利益は81百万円（同62.9%減）となりました。

（2）連結財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,871百万円増加し、207,444百万円となりました。これは主に有形固定資産のその他（純額）が増加したこと等によるものであります。

なお、信託契約解除に伴い、信託預金（責任財産限定対象）、信託建物（責任財産限定対象）（純額）及び信託土地（責任財産限定対象）は、現金及び預金、建物及び構築物（純額）及び土地にそれぞれ振り替えております。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,173百万円増加し、114,180百万円となりました。これは主に長期借入金増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ697百万円増加し、93,263百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成30年4月13日付「平成30年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,433	21,426
現金及び預金 (責任財産限定対象)	12,313	11,035
信託預金 (責任財産限定対象)	3,221	—
受取手形及び売掛金	6,976	7,440
商品及び製品	1,506	1,685
仕掛品	3,672	3,882
原材料及び貯蔵品	82	83
その他	2,797	3,384
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	45,999	48,932
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	16,082	24,180
建物及び構築物 (責任財産限定対象) (純額)	18,326	17,882
信託建物 (責任財産限定対象) (純額)	9,893	—
設備 (純額)	8,663	9,226
土地	21,998	40,921
信託土地 (責任財産限定対象)	18,751	—
その他 (純額)	6,807	9,462
有形固定資産合計	100,523	101,673
無形固定資産		
その他	2,451	2,483
無形固定資産合計	2,451	2,483
投資その他の資産		
投資有価証券	33,302	33,166
長期前払費用 (責任財産限定対象)	12,915	12,760
退職給付に係る資産	1,112	1,081
その他	7,368	7,445
貸倒引当金	△100	△99
投資その他の資産合計	54,599	54,354
固定資産合計	157,573	158,511
資産合計	203,572	207,444

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,476	7,913
1年内償還予定の社債(責任財産限定)	—	500
短期借入金	4,167	4,161
1年内返済予定の長期借入金	6,884	7,429
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	17,306	20,776
未払法人税等	751	917
賞与引当金	477	379
その他	7,371	7,859
流動負債合計	44,434	49,936
固定負債		
社債	1,100	1,100
社債(責任財産限定)	500	—
長期借入金	23,189	41,843
長期借入金(責任財産限定)	20,310	—
役員退職慰労引当金	898	936
退職給付に係る負債	1,357	1,398
資産除去債務	1,318	1,294
その他	17,897	17,671
固定負債合計	66,572	64,243
負債合計	111,006	114,180
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	18,094	18,902
自己株式	△1,419	△1,431
株主資本合計	79,829	80,624
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,124	12,035
退職給付に係る調整累計額	512	498
その他の包括利益累計額合計	12,636	12,534
非支配株主持分	100	104
純資産合計	92,566	93,263
負債純資産合計	203,572	207,444

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	49,384	44,281
売上原価	27,090	25,187
売上総利益	22,294	19,094
販売費及び一般管理費	17,493	16,643
営業利益	4,801	2,450
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	234	265
持分法による投資利益	16	47
貸倒引当金戻入額	4	—
その他	60	62
営業外収益合計	321	379
営業外費用		
支払利息	454	368
借入手数料	98	199
その他	125	159
営業外費用合計	678	727
経常利益	4,444	2,102
特別損失		
固定資産除却損	491	3
特別損失合計	491	3
税金等調整前四半期純利益	3,952	2,099
法人税、住民税及び事業税	1,295	783
法人税等調整額	6	△48
法人税等合計	1,301	734
四半期純利益	2,651	1,364
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,633	1,360



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
四半期純利益	2,651	1,364
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	661	△86
退職給付に係る調整額	9	△13
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△2
その他の包括利益合計	671	△101
四半期包括利益	3,322	1,262
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,304	1,258
非支配株主に係る四半期包括利益	18	4

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,952	2,099
減価償却費	2,588	2,649
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△99	△97
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△11	38
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	19	31
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	59	40
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△1
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	10	—
受取利息及び受取配当金	△240	△269
支払利息	454	368
持分法による投資損益 (△は益)	△16	△47
固定資産除却損	491	3
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,474	△463
たな卸資産の増減額 (△は増加)	376	△390
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,131	437
その他	864	180
小計	8,102	4,577
利息及び配当金の受取額	298	331
利息の支払額	△447	△432
法人税等の支払額	△1,542	△668
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,410	3,809
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△272	△294
定期預金の払戻による収入	172	294
現金及び預金 (責任財産限定対象) の増減額 (△は増加)	142	1,278
信託預金 (責任財産限定対象) の増減額 (△は増加)	△91	3,221
有形固定資産の取得による支出	△320	△3,595
無形固定資産の取得による支出	△71	△146
投資有価証券の取得による支出	△1,657	△50
投資有価証券の償還による収入	100	—
関係会社株式の取得による支出	—	△3
固定資産の除却による支出	△476	—
貸付金の回収による収入	97	59
その他	43	26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,332	790
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3	△6
長期借入れによる収入	7,200	22,869
長期借入金の返済による支出	△5,935	△3,670
長期借入金 (責任財産限定) の返済による支出	△815	△16,840
リース債務の返済による支出	△327	△367
割賦債務の返済による支出	△28	△28
自己株式の取得による支出	△16	△12
配当金の支払額	△552	△551
財務活動によるキャッシュ・フロー	△478	1,392
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,598	5,992
現金及び現金同等物の期首残高	16,844	15,139
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,443	21,131

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社である匿名組合築地ビルキャピタルは、当社を吸収合併存続会社、匿名組合築地ビルキャピタルの営業者である当社100%出資の子会社の築地ビルキャピタル有限会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行った結果、混同により消滅となり、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	28,952	12,326	5,159	2,946	49,384	—	49,384
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	43	65	820	2,111	3,041	△3,041	—
計	28,995	12,392	5,979	5,058	52,425	△3,041	49,384
セグメント利益	2,693	1,004	2,313	218	6,229	△1,428	4,801

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,428百万円には、セグメント間取引消去32百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,460百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	24,083	12,463	5,226	2,509	44,281	—	44,281
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	53	61	819	1,951	2,885	△2,885	—
計	24,136	12,524	6,045	4,460	47,167	△2,885	44,281
セグメント利益	444	1,099	2,305	81	3,931	△1,480	2,450

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,480百万円には、セグメント間取引消去4百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,484百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。